

大阪

「月経フレンドリーな公衆/公共トイレ」の複数都市研究



2024 年 6 月

世界中で、公共の場で月経に対処するために必要な設備が不足しています。

月経に配慮した公衆/公共トイレ（MFPT）は、月経のある人々が快適に、尊厳をもって都市を移動できるための空間と設備を提供することで、公共の場での活動に公平に参加することを可能にします。

MFPT とは？

MFPT(menstrual friendly public toilet)とは、一般の人が利用できる安全で清潔なトイレで、水や石鹸、照明、施錠可能なドアなど、トイレとしての機能を備えているものを指します。月経に配慮した「月経フレンドリー」な要素としては、以下のものを含みます：

- ・ 蓋付きゴミ箱または生理用品を捨てるための備品
- ・ 無料または低価格の生理用品
- ・ シミをチェックできる大きさの鏡
- ・ バッグ等を掛けるためのフックまたは棚

MFPT は行政が資金提供または管理するもので、独立設置型、一個室のみ、複数の個室があるユニット型などがあります。

MFPT がなぜ重要？

公衆/公共トイレを月経フレンドリーにすることで、都市の公共空間への公平なアクセスを促すことができます。月経のある人にとって、都市に MFPT がないことは、通勤、通学、買い物、観光の妨げになりえます。日常生活に不必要なストレスや不安を生み、公共の場に気兼ねなく参加できない可能性があるのです。世界的に学校や避難所、役所内で生理用品を提供することには関心が高まっているにも関わらず、月経に配慮した公衆/公共トイレの必要性は十分に認識されていません。

複数都市における MFPT 調査

MFPT 調査は世界 6 つの都市で実施しました：

- ・ バルセロナ ・ マニラ ・ 大阪市
- ・ カンパラ ・ ニューヨーク市 ・ リオデジャネイロ

この調査は、高・中・低所得国にある多様な都市において、MFPT の設置状況とアクセスを把握するために始められました。

大阪市：昼間人口 350 万人を擁するビジネスの中心地大阪市は、MFPT が何百万人もの市民、労働者、観光客にとって貴重な資源となりうる東アジアを象徴する都市です。

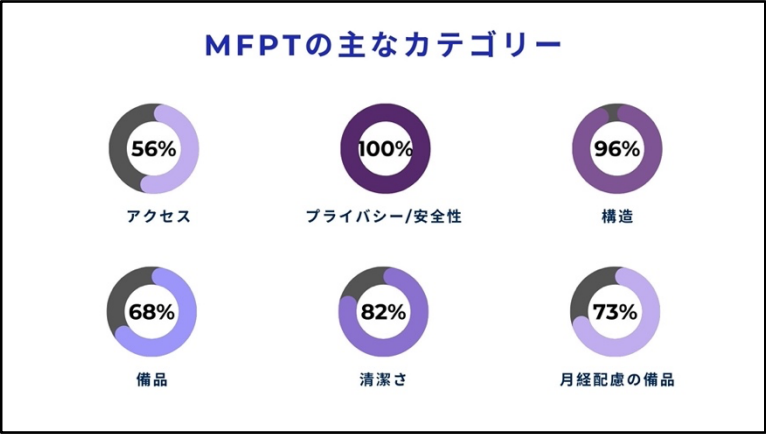
2023 年はじめ、各都市の調査チームは、公衆/公共トイレが月経に配慮したものであるか現状を評価し、月経のある人のためにトイレを改善する際の障壁とチャンスを探りました：

- (1) 各都市の 4 つのエリア（ビジネス街、観光地、住宅地、主要駅近辺）でトイレ調査を実施し、現在の公衆/公共トイレのインフラがどの程度月経フレンドリーかを把握しました（図 1 参照）。
 - ・ 全体的な「月経への配慮」と MFPT に関連する主要カテゴリーをチェック（図 2 参照）。
- (2) MFPT を整備する上での課題や可能性を理解するために、主な関係者にインタビューを行いました。**大阪では**、自治体、民間企業、NGO などとトイレや衛生、月経衛生を促進する担当者からお話を伺いました。



図 1. 大阪市におけるトイレ数の調査結果のマップ

図 2. MFPT の 6 つの主要カテゴリーにおける平均スコア¹



¹ 研究チームは、MFPT を構成する 6 つの主要なカテゴリーを、「アクセス」、「プライバシー/安全性*」、「構造」、「リソース」、「清潔さ」、「MHH リソース」として評価した。カテゴリーの特徴については表 1 を参照。各カテゴリーについて 0~100 点として平均点を算出した。スコアが高いほど、月経フレンドリーであることを示す。*注: 「プライバシー/安全性」は定量的に測定されたものであり、「安全性」に関連する社会的な文脈や報告された経験は含まれていない。

大阪調査からの主な考察

- 公衆/公共トイレは一般的に清潔で安全だが、行政が管理する「公衆トイレ」と鉄道会社が管理する「公共トイレ」には大きな差がある。
- 予算が限られていることが、公衆/公共トイレの優先順位が低い理由であり、MFPT の課題となっている。
- 月経への配慮を支持する関係者でさえも、MFPT の概念には馴染みがなく、MFPT の要素についても様々な提案が行われた。
- 現地の関係者は、政策や組織の複雑さが MFPT 実施の障壁になっていると指摘した。

表 1. MFPT のカテゴリーを構成する月経への配慮の例²

カテゴリー	本研究でチェックした要素の例
アクセス	トイレを利用するのに許可が不要
	週 7 日、24 時間あいている
プライバシー/安全性	75%以上の個室が施錠可能
	照明が機能している
構造	75%以上の個室に利用可能なフックや棚がある
	トイレが“良好な状態”で機能している
(一般的な) 備品の設置状況	利用可能なゴミ箱が設置されている
	ハンド・ドライヤーかペーパータオルが少なくとも 1 か所設置されている
清潔さ	目視できれい
	悪臭がしない
(月経配慮の) 備品の設置状況	長い鏡がある
	75%以上の個室にサニタリーボックスがある
	生理用品が提供されている、もしくは生理用品の自動販売機がある

² 上記のチェック項目は、各カテゴリーの特徴を示す数例である。データは、評価ツールに従って収集され、「基準を満たしている」(1) または「基準を満たしていない」(0) にコード化された。

大阪に関する提案

- 日本のトイレの水準の高さと誇りを、MFPT の整備と普及のモチベーションとして活用する。
- インバウンド観光客の増加や 2025 年に開催される関西・大阪万博を契機とし、公衆/公共トイレの充実に観光セクターの関与を得る。
- インフラを改善し、生理用品を提供するために、官民の連携を促す。
- MFPT のモデルとガイドラインを策定する。
- ソーシャルメディアやマスメディアを活用し、MFPT の重要性に関する認識を高める。

さらに詳しい情報はこちらへ : <https://bit.ly/MultiCityMFPTStudy>

研究チーム

大阪 MFPT 研究チーム：杉田映理
グローバル MFPT 研究チーム：Justine Bukenya, Helen Cole, Natália Helou Fazzioni, Ernesto R. Gregorio, Jr. Kim Hopper, Marian Fe Theresa C. Lomboy, Andrew Maroko, Marni Sommer
コロンビア大学チーム：Sarah Blake, Susi Martinez, Angela Nguyen, Natalie Wyss

本研究は、オスプレイ財団およびシド&ヘレイン・ラーナーMHM 教員支援基金の寛大な支援を受けて実施されました

